

カムイワッカ地区における取組の進捗状況について

トピック

【カムイワッカ湯の滝利活用検討事業】

試行事業の3年目として実施。今年度よりカムイワッカ湯の滝上部区間（4の滝まで）に加え自由利用区間であった下部区間も含め、全域をオンラインシステムを用いた有料・事前予約制に移行。現地の利用方法は全面的に変更となった。新たな利用プログラム「カムイワッカ湯ノ滝のぼり」として7月1日（土）から10月1日（日）までの93日間の運用を行った。

【マイカー規制とシャトルバスの運行】

①7月と8月の繁忙期に車両規制を伴わない渋滞対策（計9日間）、②7月22日から8月19日にはマイカー規制（29日間）を実施した。マイカー規制は、カムイワッカの利用制度の変更に併せ、運行体制や利用方法などを全面的に変更して実施した。

1. カムイワッカ部会とカムイワッカ協議会の開催状況

● 第19回カムイワッカ部会：2023年2月27日

- (1) 道道知床公園線の併用予定と硫黄山登山道の利用について
- (2) カムイワッカ湯の滝利活用検討事業の実施計画について
- (3) マイカー規制/シャトルバスの運行計画について
- (4) その他事業の予定について
- (5) 2023年度カムイワッカ地区全体スケジュール

● 2023年度 知床国立公園カムイワッカ地区利用適正化対策協議会：2023年6月12日

- (1) 2022年度(令和4年度)の事業結果
- (2) 2022年度(令和4年度)の収支決算報告及び会計監査報告
- (3) 2023年度(令和5年度)実施計画及び収支予算案

2. カムイワッカ湯の滝利活用検討事業

試行事業（4年計画）の3年目として実施。今年度より、利用方法を抜本的に転換。自由利用区間であった下部区間（1の滝上部まで）も含め、全域をオンラインシステムを用いた有料・事前予約制に移行。「カムイワッカ湯ノ滝のぼり」としてプログラム化・ブランディング化を実施。

【実施概要】 (別紙① カムイワッカ湯ノ滝のぼりパンフレット)

供用区間：4の滝まで

供用期間：7月1日～10月1日(93日間)

利用形態：webによる完全事前予約制/個人利用とガイド付き利用を併用

時間毎に30名まで、1日最大210名までの人数調整を実施

利用料(大人)：2,000円(マイカー移動期間)、2800円(シャトルバス移動期間)

管理体制：期間中、現地に3名の補助員を配置

財源：観光再始動事業(観光庁)を活用

【実施結果】

- ・全期間の利用実績は6,049名で当初目標の6,000名を超えた。1日平均65名。ガイド利用の割合は4.7%、外国人の割合は8.3%だった。(別紙② カムイワッカ湯ノ滝のぼり利用実績)
- ・ヒグマ出没、落石などが一定数発生したが、これによる直接的な被害はなかった。スリッパや転倒によるケガが多かった。救急搬送された事案が1件あった(手首骨折)。通信環境の改善と現地補助員およびガイド等との連携により、速やかな対処を実施。
- ・予約受付の方法や利用方法に関する質問、問い合わせ多数。予約システムの最適化や多言語化、周知広報の強化により、一定の浸透と理解が進んだ。
- ・アンケート調査を実施し、利用者評価等を把握した。滞在時間の増加と併せ、高い満足度を確認した。(別紙③ 利用者アンケート調査結果)
- ・マイカー規制を29日間に延長し、駐車スペースや混雑の課題を回避した。その他の期間についても適切な誘導等を実施することで、深刻な渋滞等は発生していない。交通量調査も併せて実施した(データ分析中)。

【今後の予定】

- ・今年度の課題点や改善点を踏まえつつ、確立した枠組みを活かしながら次年度も事業を継続したい。
- ・詳細な計画については、今年度実施予定のカムイワッカ部会で協議、決定する。
- ・来年度(2024年度)が試行期間の最終年となることから、試行事業としての総括と、再来年度以降のあり方の検討を進める。



カムイワッカ湯ノ滝のぼりの実施状況



現地での受付の様子



カムイワッカ専用 web サイト(www.goshiretoko.com/kamuywakka/)

3. マイカー規制とシャトルバスの運行

【マイカー規制とシャトルバスの運行】

- ・カムイワッカの利用方法が変更になったため、マイカー規制の運行も抜本的に見直した。シャトルバスも不特定多数ではなく、事前予約者を主な対象として運行した。また、知床五湖を經由せず、直通便として知床自然センター～カムイワッカ間を1日11往復した。
- ・現地での滞在時間増加や予約していない利用者への対策として、期間は29日間とした。過去10年間で最も長い期間となった。
- ・シャトルバスの総乗車人数は2,847名（往復）で1日平均100名程度だった。また、予約者以外の乗車人数（登山者など）は、202名で全体の7%程度であった。

【車両規制を行わない交通対策(7月および8月)】

- ・主に知床五湖地区での渋滞緩和をねらいとし、7月連休（3日間）と8月お盆期間（6日間）において、知床自然センター～知床五湖間における臨時バスを運行した。通常の路線バスと組み合わせ、1日10往復の運行とし、五湖渋滞時の乗り換え促進を図った。
- ・9日間の総乗車人数は372名だった。最も多かったのは8/13の146名だった。コロナ以前の状況と比較し、五湖駐車場の渋滞の頻度や待ち時間は減少する傾向となっている。

【今後の予定】

- ・今後のマイカー規制のあり方については、目的地であるカムイワッカ湯の滝試行事業の検討と足並みを揃え、カムイワッカ部会において協議・決定する。
- ・ヒグマとのあつれき対策、新たな観光コンテンツの創出、地域の二次交通網の検討などを目的としたシャトルバスの運行（アクセスコントロール事業）についてもカムイワッカ部会において協議を行う。



自然センターのバス停とシャトルバス

4. 知床ディスタンス！キャンペーン等の実施

- ・ヒグマの安全対策の普及事業として「知床ディスタンス！キャンペーン」を2020年より継続中。ディスタンスカード等を用いた「野生動物との距離感」を訴求する普及ツール等をビジター施設で配布したほか、警察による交通安全運動と連携したイベントを実施した。
- ・道道や国道の管理者と協力し、電光掲示板に道路沿線でのヒグマ注意やマナー向上を呼び掛ける表示を行った。



交通安全運動と連携したイベント実施



道道の電光掲示板に表示したメッセージ

5. 硫黄山登山口の利用（継続）

- ・カムイワッカゲート以奥は落石の恐れのため2006年より通行止めが続いているが、硫黄山登山口までは2011年度より道路特例使用制度を運用し、申請した登山者に限り徒歩による通行を認めている。
- ・2023年度は6月1日～10月2日までの124日間（道路開通期間と同じ）運用を行った。通行実績などは集計中。

6. カムイワッカ地区の整備について（工事担当：北海道 網走建設管理部）

- ・2021年度よりカムイワッカ橋以奥の落石防止工事（落石防護柵の設置等）が継続中で、今年度は工事の3年目となる（工事期間：6月～12月）。また、カムイワッカ橋とニゴリ橋の補修工事も実施予定（10月以降）。
- ・工事实施のため、カムイワッカへ至る道路の閉鎖は例年より約1か月早くなっている。

カムイワッカ地区 現地概念図



